
【執筆者紹介】（掲載順，敬称略）

Renford Reese カリフォルニア州立カリポリ・ポモナ大学政治学部教授
Elisabeth Ann Williams
 国際教養学科講師（ジェンダー論、バイリンガル教育）
室屋康孝 国際教養学科教授（哲学・思想）
野口和美 国際教養学科教授（政治学）
Pobsook Chamchong チェンマイ大学公共政策研究科准教授（タイ）

【英文校閲】

Elisabeth Ann Williams

【編集後記】

Global-Local Studies 第17号を刊行いたしました。今号の特集では、本学協定校カリポリ・ポモナ大学政治学部教授、Renford Reese (Ph.D.) 氏をお招きし、“Community Service and Outreach” と題する講演を掲載しました。ご高覧いただき、多くのご意見をお寄せいただければ幸いです。

日本では今年2023年5月、新型コロナウイルス感染症は2類感染症から5類に引き下げられ、少しずつ以前の日常に戻りつつある中、ロシアによるウクライナ軍事侵攻は依然終結の見通しはつかず、2年が過ぎようとしています。一方、直近10月には、イスラム武装組織ハマスによるパレスチナ・ガザ地区近郊イスラエル・コミュニティへの攻撃に対するイスラエル反撃で、パレスチナ紛争再熱かと、またもや世界を震撼させました。ウクライナにしてもパレスチナにしても、これら地域の背後には複雑な歴史と国際関係が絡み、それらを紐解き和平に導くために要する膨大なエネルギーを前に思わずたじろぎ「判断停止」に陥りそうになります。

2024年は世界の選挙の年と言われています。1月台湾総統選挙を皮切りに、ロシア大統領選、ヨーロッパ議会選挙と続き11月米国大統領選挙、その間には、グローバル・サウスを牽引しようとするインド総選挙、ASEANのインドネシア大統領選と、まさに世界の地政学上の情勢を左右するリーダーたちが決まります。その行方を世界は固唾を呑んで見守ることになるのでしょうか。 (SY)